

+幸せを探すあなたへ



大統領に送られた少女の手紙

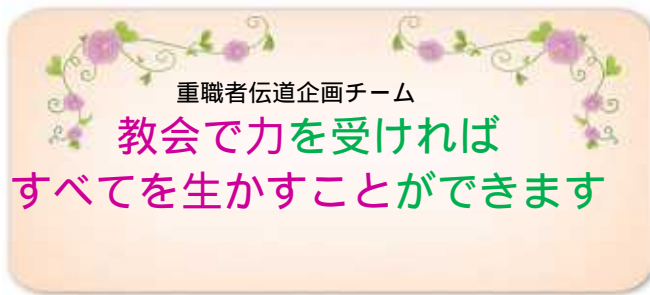
世の中をのぞいてみると だれも教えて くれない道

世の中をのぞいてみると カン・ホスンの連続殺人事件で、国民の心が沈む前に、チェジュから聞こえてきた保育園の教師拉致殺害事件は、すべての国民を絶望の中に追い込んでいます。主労総幹部の全教組女性教師性暴力未遂事件で汚された倫理と市民団体に対する懐疑感、経済不況の直撃で就職ができず、卒業を延期する大学5年と「NG(No Graduation)族」の急増、24時間ファーストフード店で夜を明かすという「ハンバーガー難民」の登場、不況の中でもオンライン運勢サイトは、爆発的な人気を味わっていて、900%が増加したというニュース...、その中で、11才になった娘が、お母さんに内緒にして「今、うちの母さんの目から涙だけ出ないようにさせてください」と言いながら大統領に送った手紙が、新貧困層の苦痛を全国民に知らせたりもしました。日本でも失業による「ネットカフェ難民(PC 喫茶店野宿者)」の増加、オーストラリアの山火事とベニスの水騒ぎ、経済不況で中国では明らかにされていない自殺者が急増して、ヨーロッパでは200人の組織化された「宝石泥棒ピンクパンサー」の登場で、全世界の有名な宝石店が非常事態に陥っているというニュースまで、今、世の中をのぞいてみれば、このありさまで。いったい、どのようにしなければならぬのでしょうか。

それでも道はあります 神様のみことばである聖書を見れば、人間は本来、神様のかたちに創造され、神様と共にすべての万物を治めながら生きる祝福を受けました。魚が水で生き、木は地に根をおろして生きるように、私たちの人間は神様とともに暮らすように約束されたたましいを持った存在でした。そのような人間が、目に見えないサタンという悪い存

在にだまされて、神様を離れる罪を犯すようになりました。この時から人間の運命はサタンに左右されて、罪とのろいと苦しみの中に陥るようになったのです。人間にはなぜか知らないむなしさと不安が訪れてくるようになって、幸せを求めてもがきながら、墮落と犯罪の中でさまようようになりました。人間は、この問題を解決してみようとする努力をしますが、善行や哲学、宗教、倫理、道徳でも解決することはできません。それで、神様が道を開いてくださいました。人間が解決できない原罪、その結果で訪ねてきたのろいと災い、運命と運勢、目に見えないサタンの働きを解決するキリスト(Christ)を送ることを約束してくださいました。そして、キリストは必ず人間の罪をあがなうために十字架で、罪がないからだが生かされなければならず、キリストという証拠で復活して、サタンの権威をうち破る方であればなりません。このキリストのすべての条件を満たされた方が、世の中にただ1人来られたのですが、その方がまさにイエス様です。人間が神様に会える道になってくださり(ヨハネの福音書 14:6)、すべての罪とのろい、生年月日による運命、運勢から解放される道になられ(ローマ人への手紙 8:2)、サタン(悪魔)のしわざを打ちこわされて、その手に捕まって奴隷のようになっていた者たちを解放する道になられました(Ⅰヨハネ 3:8、ヘブル人への手紙 2:14~15)。このイエス・キリストを信じて、自分の人生の主人として受け入れる時、神様の子どもになって祝福とすべての苦しみとサタンの手から完全に解放される祝福を受けるようになります。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ローマ人への手紙 8:1~2)



教会がすることは何ですか 今日、キリスト教は「いったい教会がすることは何なのか」と公に非難されるほどになってしまいました。はたして教会は何をする所なのでしょうか。社会団体が言う通り、教会は救済もして、善良なことも当然しなければならぬのですが、教会の本質はそれではありません。教会は、多くの人々が知っていても知らなくても受ける深刻な災いの問題、目に見えない霊的な問題、急増するうつ病と精神問題、繰り返されるぞっとする犯罪の根本問題、目に見えなく青少年を墮落させている暗やみの文化、絶えず災いが迫ってくる未来の問題に対する唯一の解決策である福音を与える所です。ホームレスにうどんを煮てあげるのも重要ですが、ホームレスにならないように手助けするのがさらに重要なのです。今は福音を持った重職者が起きて、真の教会、真の愛国の姿を見せなければならぬ時がきました。

教会は世の中を生かす最高の力を得る所です 自分がまず神様がともにおられるインマヌエルの祝福を味わって、自分自身が置かれている現場で神の国を味わう人が教会に集まる時、必ず礼拝を通して最高の働きと力を体験できます。複雑なこともあります。礼拝をささげながら「神様、今日、私が礼拝する中に聖霊で感動を受けるようにさせてください。みことばを聞く中で、聖霊に満たしてください!」このようにしても、神様は驚くべき伝道の門を開けてくださり、講壇からくださったみことばが私に成就して、弟子と出会う祝福が開かれ、現場が変化するみわざが起きるようになります。この力を持って世の中に進む時、歩みごとに主の御手がともにする恵みが見えて、世界中が飢饉になっても、経済の祝福を味わう証拠がくるようになります。こういう人が一夜十起(愛する人が痛く感じる時、一夜に十回も起きて見守ること)の心情で、世の中を生かすようになるのです。



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子ども五つの確信

救いの確信

イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15 ~ 16、1ヨハネ 5:10 ~ 13)

祈り答えの確信

神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

導きの確信

神様は聖霊であなたの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26 ~ 27、箴言 3:5 ~ 6)

赦しの確信

あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(1ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

勝利の確信

救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31 ~ 37、1ヨハネ 5:4)



神様の子ども毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。それで、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

力の中の力



英国女王も恐れたジョン・ノックスの力 宗教改革者であったジョン・ノックス(John Knox)がスコットランドで福音を伝えていた時、当時の英国の統治者だったメアリ女王は、スコットランドのプロテスタントの信徒をみんな殺せと命令しました。その知らせを聞いたノックスは自分の書斎に入って血を吐く思いで目標を定めて、とても悲しい祈りをしました。「おお、神様、私にスコットランドを下さい。さもなくば、このいのちをお取りください」そして、しばらくして、女王は「ジョン・ノックスひとりの祈りが百万の大軍よりさらに怖い」という言葉を残して死にました。後に英国王は「英国軍隊全体とジョン・ノックスを変えることはできない」と話しました。ひとりの祈りのために国の運命が変わりました。これが、神様がその子どもにくださった力です。

この力を持った弟子を残すのが最高の答えです 福音を持った弟子ひとりが聖霊の導きを受ければ、一つの地域、一つの国を生かせます。全世界の大学に影響を与えているナビゲーター宣教会は、弟子に対する徹底した一対一養育で多くの実をおさめながら大学を生かしています。結局は、神様がくださるインマヌエルの祝福、祈りの力を個人化させてあげることが最も重要なのです。この福音を持続的に伝えられる弟子を確立させるのが伝道者の実の中の最高の実なのです。

それならば、私自身から力を得なければなりません あなたは何で幸せを感じますか。もしこの祈りの力を回復したら、何も問題になることはありません。神様は全能だから、私たちが祈りに集中して、祈りで幸せになるならば、全てのことを変えることができます。祈りがどれくらい重要かという、イエス様は説教する方法は教えられませんでした。祈る方法は教えてくださいました。この祈りの力を得る時、神様のみことばが自分の心で握ることができ、みことばが成就する働きを体験できます。そうすれば、必ず他の人を生かして力を与えることができる証拠がくるようになります。この人が真の証人です。

どのようにすれば良いのでしょうか。神様の子どもにくださった祝福と権威を持って、最も平安に24時間神様と対話すれば良いのです。これが祈りです。祈りの祝福を味わえば、必ず伝道者と祈りの課題が通じて、伝道方向が通じて、神様と伝道者と一緒に一生の伝道の祝福を味わう裏面契約を見つけるようになります。そうすれば、当然、メッセージが通じて、すべての栄光を神様にささげる最も価値ある人生として中心が通じるようになります。この祈りが私の人生の習慣になって体質になる日、空前絶後な答えを見て体験するようになるのです。この時、サタンの戦略、世の中の力、すべての宗教の力を越えて、この時代(グローバル時代、多民族時代、災い時代)を先んじる福音運動、伝道運動の主演として立つようになります。平安な中で24時間祈りの祝福を味わうように願います。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

16日(月)

必ず回復しなければならない初代教会の方法(使徒 1:8)

私が隠している問題、知らずにいる問題を解決しなくては困難にあうようになります。その問題がまさに私が犯していない原罪と霊の問題です。それでキリストという解答と聖霊の内住、導き、満たしという方法を分かなければなりません。

17日(火)

既成世代を生かす次世代(使徒 5:1~11)

問題を起こす人々は、これまで積み重なった誤った体質で聖霊の導きを受けることができない人々です。次世代は、既成世代を見ながら何でも土台として、その中でより良いものを探さなければなりません。

18日(水)

今も初代教会の力を回復することができます(使徒 2:1~13)

困難がくれば気をおとす人がいるかと思えば、むしろそれを成功の機会にして挑戦する人がいます。初代教会は死の危機の前でも聖霊に満たされて一人だけの祈りの時間を持って勝利しました。

19日(木)

危機を解決する唯一の方法(使徒 1:14~21)

水が流れて、ある日、絶壁に会えば滝になります。危機と問題の波がきても神様のみことばに会えば奇跡の門が開かれます。それで今日のみことばを握って祈りの中に入らなければなりません。

20日(金)

世界を生かす時刻表(使徒 2:1~3)

神様の力を体験すれば世界を生かします。神様の力に基準を置いて神様が準備された未来をながめる完全信仰を持つ時、神の国が臨んで地の果てまで証人として立つようになる聖霊の働きを体験するようになります。

21日(土)

世界を生かす人の奥義(詩 23:1~6)

簡単に葛藤して戦う理由は、内面をコントロールする力がないためです。神様とともにいる私だけの幸せ、私だけの祈り奥義、私だけの伝道、私だけのメッセージ、私だけの成功の奥義を持った人は、未来を見て生かす oneness の祝福を味わうようになります。

週間メッセージ

産業宣教	弟子確立キャンプ(使徒 8:26,29,36~40)
伝道学	チーム働き理解(使徒 11:25~26)
核心訓練	重職者のための祈り(使徒 6:1~7)
聖日 1部	福音の中で障害物を取り除かなければ(イザヤ 62:6~12)
聖日 2部	理念を越えた真の福音運動(使徒 8:1~8)

どこまで 来られたのですか？



イラスト_ユン・スルギ

この頃は、どこを見ても心がすっきりするところがないように見える。政治家たちの熱心は理解できるが、その苦勞が国民の期待にそぐわず、終わりなく墜落する経済に押されて、人々は人生の余裕を失って、本さえ手に持ちたくない困難の中にいる。

夫婦げんかをする時、常識がある人は外に出て行ってけんかをするが、幼い赤ん坊がいる人はそのような選択をすることも難しく、結局、子どもの前で語調を高めて、終わった後には赤ん坊が受けた傷に心を痛めて悩む母親のように、私たちの現実、まるで目がくらむ断崖絶壁の道を行くようだ。

人類最初の人間であるアダムの朝は、爽快だった。生まれて初めて合う朝はきれいで新鮮だったし、彼のそばにいたエバも、また人生の楽しみであっただろう。はっきりした視線で見つめあえた時間を後にして、人間に話せない苦しみの方がきたが、それは人間の失敗の提供者サタンの攻撃だった。しかし、その攻撃はあまりにも人間的には軟らかかったし、常識的な論理なので、攻撃されていることも知らないまま人間は失敗を選択して、その結果は目もくらむような不快感であった。

人間自らの選択にとまなう苦しみだったから、結局、人間は避けられる道を自ら作ったが、それがまたサタンの遊び場に過ぎない宗教であった。その代替物は少しだけ慰めになるように見えたが、運命の鎖となって、苦しみへの避難所のようなのに災いの土台になる痛みだけになった。

爽快さを捨てた人間の不快を解決できる明快さはただ福音しかないのに、見ても見ることができず、聞いても理解できない道なので、その解決者であるキリストが、直接、その道を説明するしかなかった。宗教がすべての問題を解決する道ならば、私たちは宗教に従うべきだ。善行が人生の呪いを防ぐ唯一の解決策ならば、私たちはそれを味わうのが正しい。哲学が人間の人生の苦しみを解決する道ならば、そ

れを楽しみとすれば良いのだが、歴史と時代はその全てのものはキリストではないことを異口同音に話す。

すべての宗教の努力は終わりが無い暗やみで、すべての善行の結果は虚しい空虚さであり、すべての哲学の結果は推し量れない混とんだ。真のキリストは、人間の不快を変える明快な道であるべきなのに、それは十字架を通した救いを成し遂げて、死から復活する証拠を持った完全な人、イエス、すなわち救い主だ。

死の苦しみの中でも発見できなかった明快なこの事実が福音で、その福音を味わうことの自由が愉快さだ。さらに一歩進んで、人間に不快を提供したサタンを神として崇めて持ち上げる人生の愚かなことは、いくら説明しても理解できないから苦しい理由となる。

人々はサタンに捕えられたまま、人生の水車に押さえられて不快の苦しみにあっているが、福音の明快さを持った者は、その暗やみに勝つ痛快さで人生の価値を輝かせるので、どこであろうと、どんな状況であっても、自由さを感じるのだ。爽快さをなくしたまま、不快の道に留まっている人がいるならば、明快な道で愉快さを得て、すっきりとする痛快を味わうように願う。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまで連絡してください